

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネット録画配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます（パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です）。

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。6月定例会では、16名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。【インターネット録画配信もご覧ください】

出産から看取りまで、またひとりでも住みやすい狭山市で 高橋ブラクソン久美子（無所属）



録画配信の
2次元コード

◆障がい者でも子どもを持ち、家庭を築きたい
1996年に優生保護法は撤廃された。障がい者の結婚の状況と狭山市の現状は。
福祉こども部長 障害のある方の婚姻件数は把握していない。相談支援事業所に結婚後の生活に対する経済的な不安や、妊娠・出産及び出産後の育児に関する不安などについての相談が寄せ



在宅医療のご相談は
センターへ

られることがあり、相談者の暮らしや障害の状況に合わせて、生活の不安が解消されるよう相談や支援に努めている。

◆最期まで自宅で療養したい
狭山市では、単身者でも自宅で療養し最期を迎えることは可能か。
長寿健康部長 市内医療機関が提供する在宅医療の実態は、市が一元的に把握していないが、医師会立の狭山市在宅医療支援センターで、在宅医療と介護の連携に取り組んでいる。
単身者の自宅での看取りについても同様に、詳細を把握していないが、在宅医療支援センターでは、単身者の在宅での看取りについても相談し、必要な支援を受けることが可能である。
医療機関でも独自に支援を行っていることが考えられ、病状などにもよるが、希望に応えることは体制的には可能であると考えられる。

その他のテーマ▶多子世帯の経済支援を 国保の均等割の減免、給食費の無料化

若者の声を生かせる市政運営を 綿貫 伸子（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆大学などとの協働事業に見える化
大学などとの連携事業や協働事業の実績をホームページ上で公表するなど見える化する必要があると思うが、見解は。
総合政策部長 大学との連携や協働をより一層推進する上で、また、本市と大学との連携や協働の具体的な取り組みを市民や学生たちに広く知ってもらおうと意義あるものと考えられるの



その他のテーマ▶さやま市民大学の認知度を上げるための対策 ▶産官学の協働事業の推進を

で、今後の具体的な方法を検討していく。

◆若者の力を生かすために
①若者会議は、学生などがグループワークを通じて、若者の視点で市に提言するものだが、若者の声を市政に反映させる仕組みづくりの必要性は。
②しっかりとした仕組みづくりを行い継続的に若者の意見を反映させる取り組みについての見解は。
市民部長 ①次世代を担う若者の声を市政に反映させることは大変重要であると考えている。
市民団体が中心となって実施している「つな×つな さやま」のような市民同士が緩やかにつながる対話の場を活用して、市内の高校生や大学生などの若者から魅力あるまちづくりの意見やアイデアを引き出し、市政に生かしていきたい。
市長 ②協働によるまちづくり条例を踏まえて、協働によるまちづくりを推進するための仕組みを検討していく中で、あわせて考えたい。

狭山市駅周辺の今後の整備と見直しの予定について 福田 正（令政会）



録画配信の
2次元コード

◆西口から東口の一方通行路について
①相互通行にするための道路改良の予定は。
②相互通行とする上での障害は、どのようなものがあるのか。
都市建設部長 ①慢性的な渋滞や狭小な幅員によるすれ違いの難しさなどの問題から、一方通行とした経緯がある。西口再開発事業では、現行幅員のままインターロッキングブロック舗装を行った。西側だけでなく、踏切や東側の幅員にも難しい課題があることから、現在のところ相互通行に向けて道路改良を行う予定はない。
②法改正により、危険な踏切や渋滞の原因となる踏切は、道路と鉄道の安全性の確保の観点からなくしていく方向にある。抜本的な対策として、立体交差にする必要性が生じてくるが、多額

の事業費が必要となるほか、既存道路との接続が技術的に難しくなる。

◆西口ロータリー周辺と市民広場の使い勝手
市民広場は自転車に乗車したまま乗り入れをすることができないが、使い方のルールを変更して自転車の乗り入れを可能にすることで、利便性がより向上すると考えるが、見解は。
市民部長 安全な歩行者空間を確保する目的で整備し、人が安心して歩行できる空間となっている。にぎわいを創出する場でもあり、人の回遊もさらに活発になると見込まれることを踏まえ、市民広場を自転車に乗車したまま通行できるようにすることは難しいものとする。



踏み切りは広げることができない

地域公共交通の今後の充実に向けて 広山 清志（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆公共交通は対策の前に十分な調査を
公共交通の対策を講じる前に十分な現状把握が必要だと思うが、期間、規模、方法は。
市民部長 地域公共交通会議の委員である自治会連合会の代表から、状況を聴取するとともに、市民から寄せられる意見も踏まえ検討していく。
本年度は、市内循環バス・茶の花号の運行ルートなどの見直し後の利用動向調査を実施する予定である。また、新たな地域コミュニティ交通のあり方を検討するための調査は、今回初めて行う調査となる。

入予定は。
市民部長 今後の技術開発の状況や社会動向を注視し、他の自治体の事例を参考に、調査研究する。

◆ヘルプマークの周知への取り組みは
平成30年9月の一般質問で、ヘルプマークの周知と啓発に努めるとあるが、その後の状況は。
福祉こども部長 地域包括支援センターに啓発チラシを配置するほか、広報紙への掲載や庁舎1階ロビーにあるコミュニティビジョンでお知らせしている。また、各公共交通機関には、周知の協力依頼を行っている。



ご存知ですか？ヘルプマーク

◆高齢者の交通手段の確保のために
安全運転サポート車は、高齢ドライバー事故抑制に非常に有効であるが、購入補助制度の導

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧になりたい方には、FAXまたは郵送でお届けしますので、議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313